

## 令和3年度 第2回 HSH 運営指導委員会並びに学校評議員会の概要

### 1 日時

令和4年3月7日（月）11:30~12:30

### 2 場所

県立伊丹高等学校 緑創館1F会議室

### 3 出席者

別紙参照

### 4 協議の概要

#### (1) 地域に参加する取り組みの推進

(学校) 一年生の探究活動における「伊丹講座」の実施や二年生の課題研究発表を、Youtubeを活用した外部配信の実施によって、地域への本校の取り組みを発信することができた。

(委員) 昨年七月の企業訪問(GLiS)は企業、生徒ともに学びが多く、非常に素晴らしい取り組みであった。今後とも生徒のための教育活動をお願いしたい。

(学校) 1・2年生の合同探究の実施、また令和4年3月7日(月)の探究フォーラム中の質疑応答を通じて、学年や興味関心を越えた意見のやり取りや受容を生み出す探究活動が実施できた。

(委員) 地域との良い関係を構築できたことは評価できる。理系教育について、伊丹の潜在的レベルと伊丹の力を考慮すればまだまだ伸びる余地がある。実験をしたからよかったではなく、更なるレベルアップが必要。教員個人の力に依存するのではなく、学校全体としてシステムを構築する必要があると思われる。

(委員) 県教育委員会 WHO 神戸センターにおけるHYOGO×WKCフォーラムで発表を行った生徒について、非常に面白い研究を行っていた。SDGsは今後も世界全体で考えなければならない。次年度以降もSDGsを軸に据えた探究を行っていただきたい。

(学校) SDGsについて、今年度は一年生が伊丹とSDGsの関連について探究活動を行った。

#### (1) 探究におけるルーブリック評価の活用について

(学校) 探究活動前に教員・生徒への提示と目標設定の目線の統一を図った。

探究活動後に生徒・教員ともにルーブリックを用いて振り返りを行うことで目標への到達度を図った。

(委員) 観点別評価が生徒の学びの質の向上にどのようにつながっているかをデータで示していただきたい。

(委員) 先生方の中での明確な目標の設定と現状の分析が追いついていないのではないかと

懸念がなされる。三年間の学びで何ができるようになったのか、何が身についたのかという目標が設定、共有されているか。また現在どのような状況か。そのために正確な現状把握と目標設定が必要だと思われる。

探究において個人的な思いや誰のためという視点がないように思われた。変な調べ方や思考の型がついている可能性がある。次年度以降の探究にどのような型を学校として設定するのか。またそのフィードバックをどうするか、どう設定するか。

### (3) コロナ禍における国際活動について

(学校) 企画部の国際関係担当係が海外の日本語教育を行っている高校と打ち合わせたうえで、本校より交流を希望する生徒を募り、昼休みや放課後等を利用してオンライン会議システムを利用した交流を行った。計7か国、本校より延べ155名の生徒がオンライン交流に参加した。

(委員) 国際交流の達成をどのように評価するか。また生徒の変容とその変容を見取るシステムの検証をどうするかが今後の国際交流事業の課題である。

(委員) PTA 国際交流分担金を同窓会から折半し、振興会として積立金がプールされている状態。何か使用する機会や意見はあるか。コロナ禍の中で、国際交流資金として使用できていないため、積み立てを続けるか論議があったが、積み立ては将来への積み立てとして行っていきたい。

(学校) 来年度本校は120周年を迎える。120周年に向けて行事並びに記念に何か活用できないか、PTAよりご意見が頂戴できるとありがたい。

(委員) コロナ禍における国際活動について、海外との交流を今の状況下で継続しているのは喜ばしい。語学力に関して英検やTOEICなど数値目標を掲げているのか。数値目標を掲げてはどうか。

(学校) 実用英語技能検定2級の取得に関しては兵庫県による達成目標が定められている。本校の取得率は16.7%となっており、兵庫県の目標は達成できている状況である。

英検の校内受検は昨年度より中止しており、外部会場への受験を進めている。本校ではGTECという英語四技能試験を活用している。

### (4) ICT活用における教員の資質向上研修について

(学校) 研究授業週間に外部講師を招き、ICTを活用した授業ならびに特別支援に関する研修等を実施した。ICT委員による定期的なICT活用研修を実施し、教職員のICT活用資質能力向上を図った。

(委員) ICT委員による研修について、継続した研修を行うのはよい取り組みであると言える。ICT活用研修を受けて成長した教員が周りをカバーできる状況が生まれると、ICT活用を苦手とする先生の資質向上にもつながる。

(委員) 研究授業を全教員が授業公開し、研究授業を実施できている高等学校はほとんどない。この先も継続していただきたい。

(委員) 次年度よりBYODについて、OPEN, SHARE, JOIN。ICT活用に関しては、常に新しくよいツールが開発される。一定のフォーマットを使い続けるのではなく、使いやすい新しいツールは教員に広く公開し、使い方等を共有したうえで使用できる人を増やしていくとよい。

(学校) 参加していただけた先生方が職員室内でアドバイザー的な役割を果たしてくれるようになった。今後も活用できる先生が増えることを期待している。

(5) 情報セキュリティについて

(学校) 本校に学校教育情報セキュリティ・システム委員会を設置し、情報セキュリティ実施手順を作成した。・次年度より BYOD が始まるため、今後も ICT リテラシーやマナー、守るべきルール等を生徒ともに考えて欲しい。

(委員) 情報持ち出し等は事故が起これば本当に問題である。情報セキュリティに関しては、社会状況等に合わせて常にアップデートしていくことに留意する必要がある。

(6) 学校評価について

(学校) 今年度新たに観点別評価、指導と評価の一体化に関する項目を追加した。生徒主体の行事、地元企業や大学との連携などの項目で上昇がみられた。理数教育に関して高く評価されている。コロナ禍における地域中学校への広報活動として、HP に学校長の動画挨拶や学校説明を掲載し、自由に閲覧できる環境を整えた。一方で今後の ICT 活用については、教員より不安の声が挙がっている。

(委員) 学校長のリーダーシップのもとコロナ禍において学校活動が継続できたことは評価できる。

(7) その他の教育活動について

(委員) 卒業式について、保護者の一人として出席できた。コロナ禍の中卒業式を実施できたことは喜ばしい。

本校の同窓会について、若い世代の加入が少なく、今後同窓会の活発な活動のためにも同窓会への参加を促す必要がある。

(学校) 本校生徒会は、生徒の主体性が生きており、生徒主体の企画や動きが生まれる環境にある。節目に行われる生徒会長のあいさつでは、パワーポイントを活用するなど、生徒発信にも力を入れている状況である。また、生徒会内部のつながりが強く、学校行事の企画運営に関しても上手く連携がとれているのが本校生徒会の強みであると言える。